

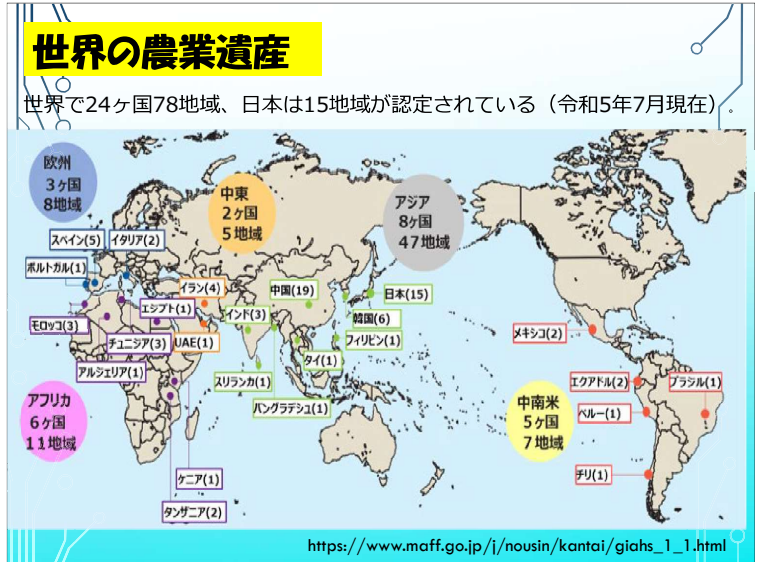


世界農業遺産とは

世界農業遺産(GIAHS)とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域(農林水産業システム)であり、国際連合食糧農業機関(FAO)により認定される。

現在、
世界で24カ国78地域
日本では、15地域
静岡県では、2地域

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/giahs_1_1.html



世界遺産との違いは？

世界農業遺産と世界遺産は似て非なるもの。

世界農業遺産はFAO(国際連合食糧農業機関)が認定。
日本の関係省庁は農林水産省

世界遺産はUNESCO(国際連合教育科学文化機関)が認定。
日本の関係省庁は文化庁

世界農業遺産と世界遺産の違いは、対象となるものとその保全の方法にある。

世界遺産は有形の文化・自然遺産であり、現状のまま保存することが目的。
世界農業遺産は農林水産業とそれに関わる地域のシステムであり、環境の変化に適応しながら持続的に活用することが目的。世界農業遺産は「生きている遺産」と呼ばれることもある。



世界農業遺産の認定基準

1. 食料及び生計の保障

地域コミュニティの食料及び生計の保障に貢献すること。

2. 農業生物多様性

食料及び農林水産業にとって世界(我が国)において重要な生物多様性及び遺伝資源が豊富であること。

3. 地域の伝統的な知識システム

地域の貴重で伝統的な知識及び慣習、独創的な適応技術及び生物相、土地、水等の農林水産業を支える自然資源の管理システムを維持していること。

4. 文化、価値観及び社会組織

地域を特徴付ける文化的アイデンティティや土地のユニークさが認められ、資源管理や食料生産に関連した社会組織、価値観及び文化的慣習が存在すること。

5. ランドスケープ及びシースケープの特徴

長年にわたる人間と自然との相互作用によって発達するとともに、安定化し、緩かに進化してきたランドスケープやシースケープを有すること。

プーアルの伝統的農茶(2012)

中国南部の雲南省・普洱市は山深い土地で、プーアル茶の原産地として有名。東南アジア諸国との国境近くにある景邁山(ちんまいさん)には、約1800年前からチャノキが栽培され、現在でも少数民族によって伝統的な栽培が続けられ、生物の多様性に寄与するだけでなく人々の生計を支え、人々の生活にはお茶文化が深く根付いていることが評価。



世界農業遺産に対し日本農業遺産もある

日本農業遺産

日本農業遺産は、世界的または国内的に重要とされる、日本各地の伝統的な農林水産業システムを、農林水産大臣が認定するもの。現在24地域



世界農業遺産の5条件に3条件を付加

6. 変化に対するレジリエンス

自然災害や生態系の変化に対応し、農林水産業システムを保全し、次世代に確実に継承していくために、自然災害等の環境の変化に対して高いレジリエンス(強靱性)を保持していること。

7. 多様な主体の参画

地域住民のみならず、多様な主体の参画による自主的な取組を通じた地域の資源を管理する仕組みにより、独創的な農林水産業システムを次世代に継承していること。

8. 6次産業化の推進

地域ぐるみの6次産業化等の推進により、地域を活性化させ、農林水産業システムの保全を図っていること。

福州のジャスミン・茶栽培システム(2014)

福建省の福州では、山にお茶の木、盆地を流れる川の沿岸には、ジャスミンの花があるという自然のルールに従った農作法が古くから残されている。福州市でのジャスミン茶作りは、明の時代から始まり、清の時代に入るとさらに盛んになり、末期には、福州市が対外通商の港と指定され、現地のジャスミン茶は欧米や東南アジア諸国に輸出されていた。



茶に関係する世界農業遺産

中国3カ所

- プーアルの伝統的農茶(2012)
- 福州のジャスミン・茶栽培システム(2014)
- 安溪鉄観音の茶文化システム(2022)

韓国1カ所

- 花開村における河東地方の伝統的農茶栽培システム(2017)

日本1カ所

- 静岡の茶草場農法(2013)

福建省安溪の鉄観音茶文化システム(2022)

安溪は福建省の南東部に位置し、10世紀に茶の生産が始まったと伝えられる。この地域で最も有名な「鉄観音茶」の歴史は18世紀に遡り、半発酵タイプのウーロン茶。現地の茶農家は自然環境を管理することで茶の木の栽培に最良の条件を確保し、質の高い茶葉を生産する。こうした方法は代々傳承され、現地の茶園生態システムの長期的安定性と持続可能性を確保してきた。



花開村における河東地方の伝統的茶栽培 (2017)

韓国茶発祥の地 河東郡花開村
828年に中国の唐(中国)から茶の実を持ち帰り、王みずからが、お茶の実を河東郡花開村の双溪寺周辺に植えたといわれ、河東郡花開村は韓国のお茶の発祥の地とされている。双溪寺は、統一新羅時代723年に開山された歴史のある寺。



茶草場農法の認定

認定区分と認定表示
実践認定者の経営茶園面積に対する管理する茶草場の面積の割合で以下のとおり区別する。



認定区分	認定表示
5~25%未満	
25~50%未満	
50%以上	

このお茶は、世界農業遺産
静岡の茶草場農法
の実践者により生産された
ものです。
生物多様性保全貢献度



この表示は生物多様性
保全貢献度を茶葉の数「静岡の茶草場農法」
でしめたものです。 世界農業遺産
「静岡の茶草場農法」
推進協議会



静岡の茶草場農法(2013)

茶草場農法とは、秋から冬にかけて茶園周辺の
採草地「茶草場」で刈り取った草を干し、木の根元
や畝間に敷く伝統農法のこと。茶草場では多様
な動物・植物の持続的な生存が期待される



出典: フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

茶草場農法実践者と面積の推移

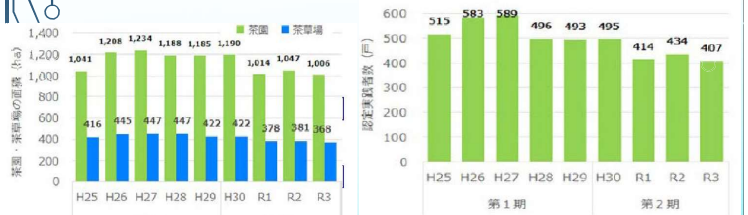


図6 実践者が管理する茶園面積及び茶草場面積の推移

図5 実践者数の推移

表8 生物多様性の調査結果 (動物類)

調査地区数	H30	R1	R2	R3
哺乳類	3	8	5	3
鳥類	10	13	16	15
爬虫類	28	57	61	59
両生類	3	5	5	8
昆虫類	4	7	9	6
合計	83	585	460	415
うち絶滅危惧種	128	667	551	494
外来種数	5	15	22	15
	0	8	4	6

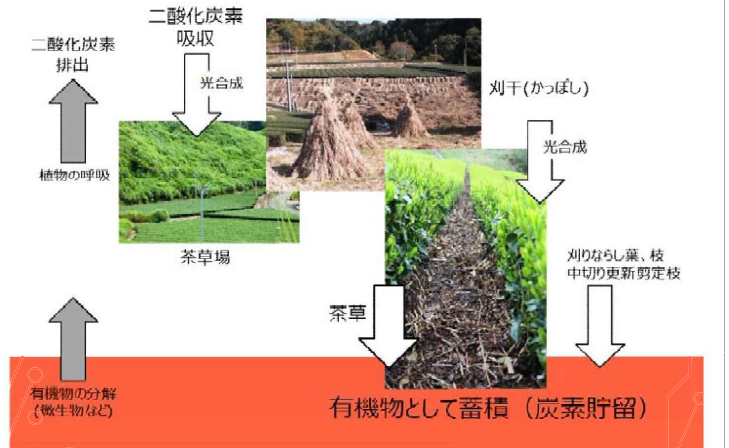
世界農業遺産 (GIAHS)「静岡の茶草場農法」第3期アクションプランより

茶草場にみられる多彩な動植物



茶草場農法を守る自然、世界農業遺産「静岡の茶草場農法」(chogunoba.jp)

茶草場農法の茶園における炭素循環



世界農業遺産 (GIAHS)「静岡の茶草場農法」第3期アクションプランより